

処方箋データを用いた高齢者への処方実態調査

現在の日本では超高齢社会の進行に伴い社会保障関係費の中でも特に医療費が増大しており、社会保険のシステムの将来的な破綻が危惧されている。医療費の増大の要因の1つとして考えられるのは高齢の患者数の増加である。高齢の患者は多剤処方（ポリファーマシー）を受けていることが多いが、内臓機能の低下により薬効が過剰になり、薬剤関連の有害事象を引き起こす可能性が一般成人に比べ高くなる。そこで調剤薬局ベースの処方箋データを利用して、高齢者への医薬品処方実態を調査することを検討している。今発表では研究の背景や利用予定のデータベースの概要について述べる。